

校長室だより



令和3年9月24日

No.17

9月も半ばを過ぎると秋の色合いがあちこち感じられるようになりますね。先日、いたち川沿いの遊歩道を歩きましたが、4月は桜のピンク、少し前は緑の盛り、そして今はもう黄色が混じった木々の色の変わりように驚かされました。

さて、少し前の話になりますが、本校でも教育実習生の受け入れを行いました。将来、特別支援学校の教員を目指す大学生（主に3年生、4年生）が現場での教育活動を体験し、教育活動の実態を学び、教育者としての資質能力の育成を図るという目的で、特別支援学校の教員免許を取得するためには必ず行わなければなりません。毎年、数名の実習生が来ていますので子どもたちは慣れたものですが、実習生にしてみれば、2週間というドキドキの短い期間の中で、貴重な、そして忘れることのできない多くの経験や学びがあります。

今年は4大学から8名の実習生が来ました（もちろん感染症対策を徹底してという条件付きで）。実習生の皆さん、最初はおそるおそるで、何をしたらいいのか、どう声を掛けたらいいのか、戸惑いと混乱の中にいる様子でしたが、すぐに慣れて子どもたちといっしょに遊んだり、一生懸命指導・支援に取り組んだりしている姿があちこちで見られました。子どもたちと触れ合って、教育現場を見学して、授業補助をして、授業計画（指導案）を作って、自分が中心となって授業をして、先生たちに指導、助言をいただいて…実に濃い2週間です。でも、この2週間によって、大学や書物だけでは得られない、教員としての道を進むための目に見えない力や思いが形作られていくことは確かです。今本校で仕事をしている先生たちも過去に（数年前か数十年前かはさておき）乗り越えてきた大きな山なのです。

中には乗り越えられなくなってしまう学生さんもいますが、今回の実習生さんたちはしっかりと目標をもって毎日の実習に励み、2週間多くのことを学び、考え、身に付けていただけたようです。全体の反省会で出された感想を一部紹介します。

- ・特別支援学校ならではのチームの大切さを学んだ。
- ・一人ひとりの実態把握が大事。
- ・子どもが変わってきた、よくなってきたことがわかってうれしかった。
- ・これからの人生でやりたいことが増えた。
- ・大学の勉強では見えてこない、見たかったものが見えてきた。

など多くのものを持って帰っていただけたようで、学校としてもうれしい限りです。実習生を受けて、指導するというのはなかなか手がかります。（特に指導教官となった先生は大変です。）でも、そのことで、次の世代を担う若い先生たちを育てていけるのであれば、これも学校の使命の一つと考えます。お付き合いいただいた子どもたちにも感謝です。

ちなみに40年前、中嶋も教育実習として高校で世界史を教えました。私がいただいた評価は「部活動の指導はよくできました」でした…。そして、担当の先生は私が授業で扱った範囲をもう一度生徒たちに教え直していたとか…。

